



環境かわら版

<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000007029.html>

平成30年3月号 (第262号)

特集1

「あいち地球温暖化防止戦略 2030」を策定しました……………P2

特集2

「2018 愛知環境賞」の表彰式を行いました……………P4



愛知環境賞表彰式 知事挨拶 (P4)



愛知環境賞表彰式 (P4)



「もりの学舎まつり」を開催します! (P5)



「あいち生態系ネットワーク協議会 地区間交流会」を開催しました (P8)



エコアクションを
はじめよう! つづけよう! つなげよう!

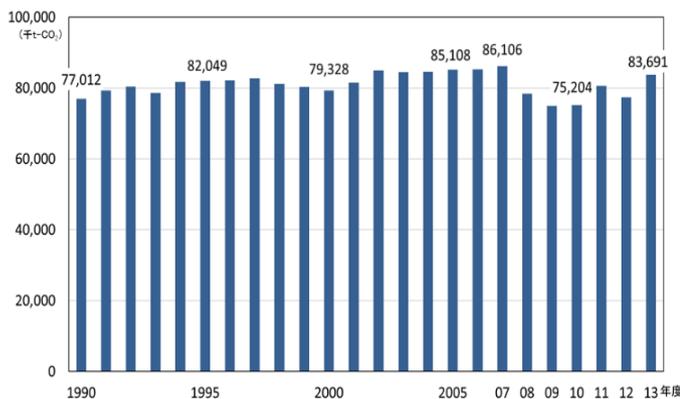
<http://aichi-eco.com>



愛知県では、平成17年1月に「あいち地球温暖化防止戦略」を策定し、地球温暖化防止に関する取組を総合的かつ計画的に推進してきました。その後、平成24年2月に「あいち地球温暖化防止戦略2020」へ改定し、施策の充実強化を図ってきました。

しかしながら、2013（平成25）年度における県内の温室効果ガスの総排出量は、83,691千トン-CO₂で、基準年度（原則1990（平成2）年度）と比較すると8.7%増加しています。部門ごとに見ると、産業部門では減少（▲1.8%）しているものの、業務部門及び家庭部門で大きく増加（それぞれ+44.8%及び+39.7%）しているほか、運輸部門もわずかに増加（+1.1%）しています。

県内の温室効果ガス排出量の推移



一方、京都議定書に代わる2020年以降の新たな国際枠組みである「パリ協定」の採択・発効や、我が国における2030年度までの温室効果ガス排出量削減目標の設定とその目標達成のための「地球温暖化対策計画」の閣議決定など、地球温暖化問題を取り巻く社会情勢は大きく変化しています。

本県では、こうした社会情勢の変化等に対応し、中長期の地球温暖化防止の取組を積極的に推進するため、学識経験者や関係団体の代表者等で構成される検討委員会において、新たな戦略の策定について検討を進めてきましたが、この度、新戦略として「あいち地球温暖化防止戦略2030」を策定しました。

1 戦略の位置づけ

本戦略は、地球温暖化対策の推進に関する法律第21条第3項に基づく「地方公共団体実行計画（区域施策編）」及び県民の生活環境の保全等に関する条例第72条に基づく「地球温暖化の防止に関する計画」として策定するものです。

2 計画期間

2030年度までとし、概ね5年ごとに見直しを行います。

3 戦略のポイント

【ポイント①】

新たな温室効果ガス排出量の削減目標を設定

2030年度の県内の温室効果ガス総排出量を、2013（平成25）年度比で26%削減することを目指します。

2030年度の部門別の温室効果ガス削減率（2013年度比）

部門等	削減率
産業部門	▲13.5%
業務部門	▲49.5%
家庭部門	▲47.1%
運輸部門	▲28.9%
その他	▲23.0%
総排出量*	▲26.0%

※吸収源対策を含む。

【ポイント②】

「徹底した省エネルギー」と「創エネルギーの導入拡大」による温室効果ガスの大幅削減

温室効果ガス削減に向け、以下の3つの視点に基づいた取組（緩和策）により「徹底した省エネルギー」と「創エネルギーの導入拡大」の推進を図ります。



温室効果ガス排出量の削減目標と取組の視点

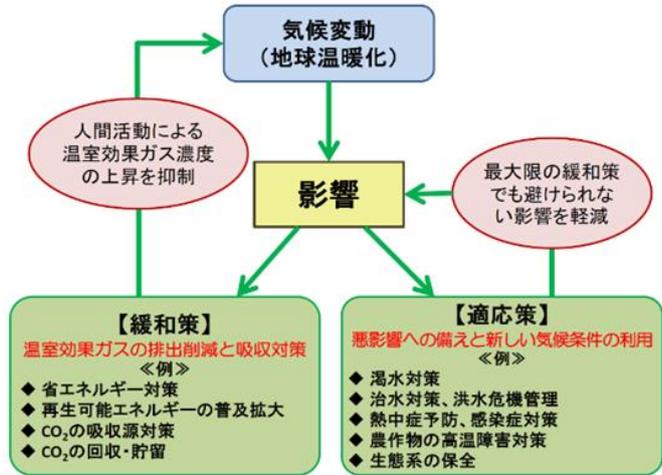
【ポイント③】

気候変動の影響への「適応策」を推進

本県においても、長期的な気温上昇などの気候の変化が現れており、今後も上昇するおそれがあります。こうしたことから、大気中の温室効果ガス濃度を低減させる「緩和策」により、地球温暖化の進行抑制に最大限取り組んだ上で、それでも避けられない気候変動の影響に対しては、「適応策」により適切に対処するよう取組を推進します。

戦略の詳細は Web ページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/ondanka/ontai2030.html>)



緩和策と適応策の関係

いま、私たちにできること

本戦略の温室効果ガス排出量の削減目標は、2030 年度までに達成する目標です。

住宅の建替えや機器、設備の更新のタイミングに合わせて省エネ型の製品等を選択することで、無理なくスマートに省エネルギーを進めることができます。また、環境に配慮した一人一人の小さな積み重ねが温室効果ガスの排出削減につながります。

身近に取り組める行動の例を紹介するので、みんなで目標の達成に向けて取り組んでいきましょう。

<p>身近なCO₂の排出量を調べよう</p> <p>暮らしからのCO₂を減らすには、自分がどれくらいCO₂を出しているかを知ることが大切です。毎月の電気やガスの検針票などからCO₂排出量を簡単に計算できます。</p>	<p>電気・ガス・水の使用量を減らそう</p> <p>照明や家電製品のスイッチをこまめに切りましょう。また、使っていない家電製品はコンセントを抜いたり、スイッチ付きタップを使ったりして待機電力を減らしましょう。</p> <p>お風呂は間を置かずに入りましょう。シャワーや水道はこまめに止めましょう。</p>
<p>徒歩、自転車、公共交通機関を使い分けよう</p> <p>出かけるときは、なるべく徒歩、自転車、バスや電車などの公共交通機関を利用しましょう。</p>	<p>省エネ性能の高い照明や家電製品を選ぼう</p> <p>LED 照明は、同じ明るさの白熱電球に比べて消費電力が数分の1です。冷蔵庫やエアコン等の家電製品は急速に省エネ化が進んでいます。これらを買換えるときは、省エネ性能の高い製品を選びましょう。</p>
<p>エコカーを選ぼう、エコドライブしよう</p> <p>自動車を購入する際は、環境性能に優れ、エネルギー効率の高いエコカーを選びましょう。自動車を運転するときには、急発進を避け、一定速度で走行するエコドライブに心がけましょう。</p>	<p>窓や壁などの断熱性を高めよう</p> <p>建物の窓や壁に断熱性の高い素材を使用すると、冷暖房の効率が良くなって電気やガスを節約できるだけでなく、結露が減りカビが発生しにくくなるなどの利点があります。</p>
<p>太陽の恵みを活用しよう</p> <p>太陽光発電・太陽熱利用設備を導入すると、太陽エネルギーを電気や熱として利用できます。</p>	
<p>旬のもの、県内でとれたものを食べよう</p> <p>食べ物を遠くから運んでくるためにもエネルギーは必要です。旬のもの、近くでとれたものなら、使うエネルギーも少なく、新鮮です。</p>	<p>〔 大気環境課地球温暖化対策室 温暖化対策グループ 電話 052-954-6242 (ダイヤルイン) 〕</p>

愛知県では、資源循環や環境負荷の低減を目的とした優れた<技術・事業> <活動・教育>を実践する企業、団体等を表彰する「愛知環境賞」を平成17年3月に創設し、昨年までに166件を表彰してきました。

14回目となる今回は、46件の応募があり、例年以上にレベルの高い事例の中から、選考委員会で先駆性・独創性、資源循環や環境負荷低減への波及効果、社会全体に対する啓発効果などを総合的に審査し、15件の受賞者を決定しました。

2月15日にローズコートホテルで行った表彰式では、主催者の大村知事と水野明久環境パートナーシップ・CLUB 会長(中部電力(株)会長)から、各受賞者に表彰状とトロフィーが授与されました。



「金賞」の530運動環境協議会



「金賞」のリンナイ(株)

詳細は愛知環境賞の Web ページをご覧ください。

(<http://aichikankyoushou.jp/>)

2018 愛知環境賞 受賞者一覧

賞の種類	受賞者	受賞事例
金賞	ゴミゼロ530運動環境協議会(豊橋市)	豊橋市から始まり、40年以上継続している530運動
金賞	リンナイ(株)(名古屋市中川区)	多様なエネルギーを賢く最適に利用できる究極の省エネ給湯・暖房システム「エコワン」の開発
銀賞	(株)マキタ(安城市)	環境負荷低減技術の革新で、工具の国際的総合サプライヤーとして幅広い地球環境保全活動に取り組む
銅賞	中津川包装工業(株)(春日井市)	強化段ボール「ナビエース」と段ボールパレット「ナビパレット」を用いた包装及び輸送の環境負荷低減
銅賞	ニチハ(株)(名古屋市中区)	国産材を利用した外壁材による低炭素化活動とそのリサイクルシステムについて
中日新聞社賞	愛知県立佐屋高等学校(愛西市)	アヒル農法で地域を救う! 「アヒル農法によるホテル舞う水田環境の実現とアヒル農法米での6次産業化」
名古屋市長賞	(株)メニコン(名古屋市中区)	コーヒー豆かすリサイクルの取組による食品リサイクルループの確立
優秀賞	アツタ起業(株)(愛知郡東郷町)	高精度ダイカスト技術開発で、後工程の減少と薄肉軽量化による大幅な環境負荷低減の達成
優秀賞	アルメック(株)(豊明市)	業界初の「水を使った JIG による金属残さの選別」
優秀賞	森林公園ゴルフ場運営(株)(尾張旭市)	地域とともに育む「里山と共生するゴルフ場」をめざして～愛知県森林公園の自然の保全・育成と環境教育の実践活動～
優秀賞	中日精工(株)(豊川市)	三河産間伐材、廃木材チップを利用した環境にやさしい消臭剤の開発・製造事業
優秀賞	(株)デンソー(刈谷市)	LCA、環境マネジメントシステム、品質保証体制の融合で環境経営を実践する「デンソーエコビジョン 2025」
優秀賞	(株)毎日商会(岡崎市)	混合廃棄物の管理型最終処分量大幅削減と資源化を実現する業界初のシステム
優秀賞	守山リス研究会(名古屋守山区)	名古屋市の野生ニホンリス等野生哺乳類の調査・保全活動を通じた環境教育の実施
優秀賞	ユニー(株)(稲沢市)	パートナーシップで繋ぐ地域循環の環 地域未利用繊維素材×若者×福祉×エシカル＝リデザインプロジェクト

資源循環推進課 循環グループ
電話 052-954-6233 (ダイヤルイン)

あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業の 実施団体を募集します

愛知県では、平成 21 年度から導入された「あいち森と緑づくり税」を活用し、NPO・ボランティア団体や市町村などが行う自発的な環境保全活動や環境学習に対し、「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金」による支援を行っています。

現在、平成 30 年度に実施する企画提案事業を募集しています。この事業を通じて、里山での植樹や間伐など森・緑の育成活動、森林と川・海との水循環について学ぶ環境学習、緑のカーテンによる温室効果ガス排出抑制に関する学習などの取組を進めます。

1 対象とする団体

NPO 法人、ボランティア団体、農協、漁協、森林組合、自治会、私立学校、市町村等（愛知県内に活動の拠点を置く、5 人以上の団体）

2 募集期間

2 月 14 日(水)から 3 月 14 日(水)まで (必着)

3 提出書類及び部数

「あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業実施計画書」3 部。様式は下記の Web ページから。

4 提出場所

主な事業実施場所を所管する東三河総局又は県民事務所等（名古屋市内の取組は環境活動推進課）。



活動イメージ（自然観察会）

(<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/0000023749.html>)

（環境活動推進課 調整・環境配慮行動グループ
電話 052-954-6240（ダイヤルイン））



まなびや 「もりの学舎まつり」を開催します！

愛知県では、愛・地球博記念公園（モリコロパーク）内の環境学習施設「もりの学舎」で、「もりの学舎まつり」を名古屋キワニスクラブの協賛を得て開催します。当日は、「キッズインタープリターの自然体感プログラム」や自然の中で自分で遊びを考える「森のあそびバ!」、オカリナを演奏する「もりのコンサート」など多くのプログラムを実施します。

「キッズインタープリターの自然体感プログラム」に参加した先着 200 名には記念品をプレゼントします。事前申込み不要で、参加費は無料です。皆様のご参加をお待ちしています。

1 日時 3 月 18 日（日） 11:00～15:30

2 内容と実施時間

(1)キッズインタープリターの自然体感プログラム
(11:10～14:50)



昨年の様子

(2) 森のあそびバ! (11:10～15:30)
(3) もりのコンサート (14:00～14:30)
(4) 「もりの学舎キッズクラブ」写真展
詳細については Web ページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyokatsudo/festival.html>)

※ 雨天の場合、プログラムの変更があります。

（環境活動推進課 環境学習グループ
あいち環境学習プラザ
電話 052-972-9011（ダイヤルイン））

水銀大気排出規制が平成30年4月1日から開始されます

石炭利用などによる水銀等の人為的な排出から人の健康及び環境を保護することを目的とした「水銀に関する水俣条約」（以下「水俣条約」という。）が平成25年10月に採択されました。我が国は、水俣条約を平成28年2月に締結し、平成29年5月に締約国数が50か国に到達したことから、同年8月に同条約が発効されました。

この水俣条約を踏まえ、大気汚染防止法が改正され、水銀排出施設から水銀等を大気中に排出する者等に次の事項等が義務付けられることになり、平成30年4月1日から施行されます。

○ 水銀排出施設に係る届出制度

水銀排出施設（石炭火力発電所、産業用石炭燃焼ボイラー、非鉄金属製造施設、廃棄物焼却設備、セメントクリンカー製造施設）の設置又は構造等変更をしようとする場合、都道府県知事等に工事

着手の60日前までに届出をする。

※既存施設の設置者は5月1日までに届出。

○ 水銀等に係る排出基準の遵守等

水銀排出施設の種類ごとに定められた排出基準を遵守するとともに、水銀等の濃度を測定し、その結果を記録・保存する。

○ 要排出抑制施設の設置者の自主的取組

「製鉄の用に供する焼結炉（ペレット焼成炉を含む）」と「製鋼の用に供する電気炉」は要排出抑制施設とされ、自主的取組として、自ら遵守すべき基準の作成及び水銀等の濃度の測定・記録・保存等、実施状況等の公表をする。

詳細はWebページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/>

[taiki/suiginkisei.html](http://www.pref.aichi.jp/soshiki/taiki/suiginkisei.html))

大気環境課 規制グループ

電話 052-954-6215（ダイヤルイン）



「AEL ネット環境学習スタンプラリー」を開催しました



県民の皆さんに楽しく環境について学んでいただくため、愛知県環境学習施設等連絡協議会（愛称：AEL ネット）に加盟する民間や市町村の環境学習施設等と連携して、平成29年6月22日から平成30年2月28日まで「AEL ネット環境学習スタンプラリー」を開催しました。このスタンプラリーは、環境学習施設等への来館、環境をテーマとした講座・イベントへの参加により、スタンプを3個以上集めて応募された方に、抽選で最大5,000円分の図書カードなどの記念品をプレゼントするものです。



秋葉いこいの広場
環境学習センター
エコきち（安城市）
「ザリガニ釣り」



一宮市立中央図書館
「環境に関するおはなし会」

約8か月の開催期間中、6万人を超える方が参加され、記念品の抽選には5,000通を超える応募がありました。参加者からは、「次はどここの環境学習施設に行こうかと考える楽しみができた」などの意見が寄せられています。

また、「あいちエコアクション広報部」の地元アイドルグループOS☆Uのメンバーが、愛知万博公式マスコットキャラクターのモリゾー・キッコロとともに、スタンプラリーの対象イベントに参加しました。当日の様子を、Webページ「エコリンクあいち」（<http://aichi-eco.com/>）に掲載していますので、是非ご覧ください。

来年度も6月下旬からスタンプラリーを実施する予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

環境活動推進課 環境学習グループ
あいち環境学習プラザ
電話 052-972-9011（ダイヤルイン）



「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」 にご協力ください

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020 大会）に向けて、（公財）東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会は、使用済み携帯電話等の小型家電から金・銀・銅あわせて約 5,000 個のメダルを製作する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」を実施しています。

本プロジェクトは、リサイクル金属をメダル製作に活用することで、日本のリサイクルの取組を国際的にアピールするとともに、環境に配慮した持続可能な社会を推進するものです。

過去にもメダルの原材料の一部としてリサイクル金属が使用された例はありましたが、国民が参画し、メダル製作を目的に使用済み小型家電の回収を行い、集まったものから抽出された金属でメダルの製作を行うプロジェクトは、オリンピック・パラリンピック史上、東京 2020 大会が初めてとなります。

平成 30 年 2 月 16 日現在、本プロジェクトには全都道府県と、1,741 ある全国の市町村のうち県内の全 54 市町村を含む 1,323 市町村が参加しています。

使用済み小型家電の回収は、公共施設・商業施設等や各種イベント会場に市町村が設置する回収ボックスによる回収のほか、市町村が指定するごみステーションやクリーンセンター等で定期的に行われて

いる回収等があります。本プロジェクトに活用される小型家電の回収品目、回収方法等は市町村によって異なりますので、詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

また、市町村以外にも（株）NTTドコモが使用済み携帯電話・スマートフォン・タブレットの回収を行っていますので、併せてご利用ください。

是非、この機会にご自宅に眠っている使用済み小型家電を有効活用する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」にご協力いただき、東京 2020 大会のメダル作りにご参加ください。

※プロジェクトに関する各市町村のリンク先等は愛知県の Web ページをご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/junkan/medal-project.html>)

愛知県 メダルプロジェクト

検索

資源循環推進課 一般廃棄物グループ
電話 052-954-6234 (ダイヤルイン)



名古屋市の小型家電回収ボックス



携帯・スマホ専用の回収ボックス



都市鉱山からつくる！ みんなのメダル プロジェクト

みんなの想いが集まって



携帯電話やパソコン等
小型家電を全国各地で回収

東京2020メダリストへ



小型家電から抽出した
リサイクル金属でメダルを製作

資源をより活かす社会に



資源の有効活用をより重視する
さらに持続可能な社会へ

公営プログラム 持続可能性 TOKYO 2020 TOKYO 2020

※東京 2020 組織委員会にて製作

「水質事故未然防止対策説明会」を開催しました

油や有害な物質が河川などの公共用水域へ流出すると、魚が死んだり、水道水の取水ができなくなる等、大きな被害をもたらすことがあります。このような水質事故は、愛知県内だけでも、毎年100件ほど発生しています。

こうした水質事故の未然防止を図るため、愛知県では県内の事業者を対象に「水質事故未然防止対策説明会」を開催しています。

今年度は、2月5日に開催し、99名の方々が参加されました。

説明会では、県内での水質事故の発生状況や、今年度起きてしまった事故の主な発生要因、未然防止のために必要な対策等を説明しました。

また、「変圧器リサイクルセンターにおける災害防止等の取組について」と題し、中部電力（株）変圧器リサイクルセンター所長、^{さわだ いさお}澤田伊左男さんから

PCB を取り扱う事業所としての先進的な取組事例をご紹介いただきました。

県では、今後も説明会の開催や、Web ページで日常点検チェックリストやリーフレットを掲載するなど、水質事故の未然防止に必要な情報を提供していきます。



説明会の様子

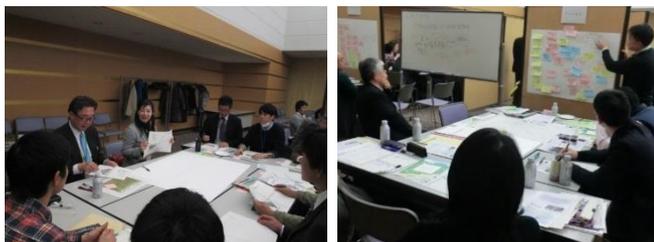
〔 水地盤環境課 規制・土壌グループ
電話 052-954-6222 (ダイヤルイン) 〕

「あいち生態系ネットワーク協議会地区間交流会」を開催しました

県内各地域の生態系ネットワーク協議会の構成団体間の相互交流や、学識経験者・専門家との出会いを通して、生物多様性の保全活動が更に活性化されることを目指し、1月27日（土）に ウィルあいち において地区間交流会を開催しました。

○ 第1部 テーマ別グループディスカッション

県内各地からの参加者約100名（NPO・企業・行政・大学等）が『希少種・外来種対策』『生態系保全策』『ビオトープ』『地域活性化』の4つのテーマに分かれ、ファシリテーター（学識経験者等）を中心に意見交換を行いました。



グループディスカッションの様子

○ 第2部 ファシリテーターからのコメント（全体会）

総括の^{ただゆたか}武田 穰氏（名古屋大学名誉教授）、希少種・外来種対策の^{せりざわしゅんすけ}芹沢 俊介氏（愛知教育大学名誉教授）を始め、ファシリテーターから第1部のまとめや「どんな生態系を目指すかは地域での合意が必要」

「活動を続けるためには楽しみも必要」など、今後の活動に向けた示唆をいただきました。

コメントを聞く参加者の皆さん
参加者からは、「様々な立場の人と気軽に議論できた」など、96%の方から「交流会に参加して良かった」との感想が寄せられました。

県では引き続き県内9地域の生態系ネットワーク協議会の相互交流を促進し、生物多様性保全活動の更なる活性化を目指していきます。

〔 自然環境課 国際連携・生態系グループ
電話 052-954-6229 (ダイヤルイン) 〕

「災害廃棄物処理図上演習」を実施しました

南海トラフ地震のような大規模災害が生じた場合、片づけごみや津波堆積物など大量の廃棄物が発生し、生活環境を悪化させるだけでなく、復旧・復興の大幅な遅れへとつながるおそれがあります。そのため、平成28年10月に策定した「愛知県災害廃棄物処理計画」に基づき、県、市町村及び民間事業者団体等が連携・協力して災害廃棄物の適正かつ迅速な処理を行うことが重要です。

こうしたことから、1月29日と2月9日に本県初となる災害廃棄物処理図上演習を県（環境部、防災局、県民事務所等）、市町村・一部事務組合、環境省中部地方環境事務所及び民間事業者団体（愛知県衛生事業協同組合、（一社）愛知県産業廃棄物協会、（一社）愛知県環境測定分析協会）の参加のもと実施しました。

図上演習では、仮想都市として設定した3市（沿

岸部、内陸部、都市部）・1県に参加者を割り振り、南海トラフ地震の発生後5日目から7日目までの3日間を想定したシナリオに基づき、災害廃棄物処理に係る様々な課題への対応をロールプレイング形式で実践しました。参加者には「ごみ焼却施設が停止した」「仮設トイレが足りない」「片づけごみの分別方法が分からない」といった被害状況や住民からの苦情などに対して、一定の時間制限の中で判断を求め、災害時の切迫感を疑似体験してもらいました。演習を通じて、業務手順や連携体制を確認することができ、災害時の対応力の向上につながることとなりました。



図上演習の様子

資源循環推進課 一般廃棄物グループ
電話 052-954-6234（ダイヤルイン）

「愛知県環境調査センター研究発表会」を開催しました

愛知県環境調査センターは、県の環境行政を科学的・技術的に支える調査研究機関です。大気、水質や騒音等の環境基準の適合状況を把握するための調査を始め、事業場からのばい煙や排出水の測定、さらに廃棄物、有害な化学物質の分析などを行っています。また、県の良好な環境を確保するための調査・研究に取り組んでおり、その研究成果等を広く発信するため、毎年度、研究発表会を開催しています。

今年度は1月30日に、愛知県三の丸庁舎大会議室において開催し、約80名の方にご参加いただきました。

「油ヶ淵に生育する水生植物のモニタリングについて」や「愛知県における地下水中の砒素に関する一考察」、「浄水汚泥による有害物質等の吸着の可能性について」など7題の発表があり、参加した皆さんは、研究成果の説明に熱心に耳を傾けていました。

研究発表会の講演要旨は、Web ページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

(<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/kankyo-c/0000049940.html>)



研究発表会の様子

環境調査センター 企画情報部
電話 052-910-5489（ダイヤルイン）

連載 「あいちの未来クリエイト部」の活動を紹介します(5)



～愛知県立知立東高等学校 自然科学部～

高校生が、環境問題について調査・研究を行って環境学習プログラムを作成する「あいちの未来クリエイト部」の活動が7月から10月にかけて行われました。

最後は、「愛知県立知立東高等学校 自然科学部」の皆さんから紹介させていただきます。

【活動データ】

テーマ

猿渡川の環境と生きものの関わり

グループ名

愛知県立知立東高等学校 自然科学部

アドバイザー

人間環境大学人間環境学部 藤井 伸二 准教授

ファシリテーター

愛知教育大学教育学部 大鹿 聖公 教授

知立東高校自然科学部では、以前から学校周辺を流れる猿渡川のカメの生息状況を調査してきました。その結果、在来種のニホンインガメの他、外来種のミシシippアカミガメが数多く生息していることがわかり、「これらのエサとなる植物の調査を通じてカメの生態について更に深く研究したい」、そして「環境と人間のかかわりについて地域の人たちと考えていきたい」と思い、この活動に参加しました。

＜調査・研究＞

アドバイザーの指導を受けて、実際に猿渡川で植物調査を行いました。植物を採集しては専門的な図鑑を用いて同定するといった作業の繰り返しで、一つ一つの植物を細かな点までしっかり観察しないと同定ができず大変でしたが、多くの種類の植物が生育していることを実感しました。また、この植物調査の結果を利用して、猿渡川で捕獲したカメがどの植物を好んで食べるのかを詳しく調査しました。

＜プログラム作成＞

プログラムは、カメの食性調査の結果を盛り込んだものにしたいと考えました。そして、猿渡川の環境や生息するカメを題材に、カメの生態や外来種問題、人が自然環境に与える影響を学ぶことができるボードゲーム「すごろくカメマス」を作成しました。

完成したプログラムは、11月に開催したイベント「Let's エコアクション in AICHI」のワークショップで実施した他、12月には地域の中학생に対してこのプログラムによる授業を行いました。参加した中學生から「自然環境に興味を持てた」「楽しかった」との感想をもらい、嬉しく思うと同時に、今後もっと多くの場所で実施し、生きものと私たちの関係について発信していきたいと思いました。



植物の同定



中学校での出前事業

環境活動推進課 環境学習グループ
電話 052-954-6208 (ダイヤルイン)

愛知県環境情報紙「環境かわら版」
平成30年3月5日発行(第262号)
編集・発行 愛知県環境調査センター
企画情報部
〒462-0032 名古屋市北区辻町字流7-6
電話 052-910-5489 (ダイヤルイン)

編集後記

平昌オリンピックが閉幕しました。私が注目して見ていたのは、カーリングです。今後の展開や相手の考えも含めて予想し、石を置いていく。時には思い切って相手の石をはじき出す。様々な交渉ごとに通じるように思いました。また、4年に1度の大会で力を発揮することの難しさと同時に、プレッシャーに打ち勝とうとする選手の集中力に感銘を受けました。皆さんはどう感じましたか。
(企画・編集チーム)

※ この環境かわら版は、環境部 Web ページ「あいちの環境」<http://www.pref.aichi.jp/kankyo/>でも発信しており、写真等をカラーでご覧いただけます。この記事は広報紙等へ再掲していただきますようお願いいたします。